

鹿児島県内での「果実及び野菜」の輸出額 2016年比で約6.5倍に増加

1 はじめに

2023年に鹿児島県内に所在する税関官署が管轄する区域に蔵置され輸出許可された「果実及び野菜」の輸出額は3億5,300万4千円でした。

これは、2016年の輸出額が5,461万円でしたので約6.5倍の増加となっています。

上述したとおり、「果実及び野菜」の輸出額が大きく増加していましたので、その詳細について調査しましたのでお知らせします。

○調査対象の概況品コード及び輸出統計品目番号

概況品目	概況品コード	輸出統計品目番号（HSコード）
果実及び野菜	011	07~08、1105~1106、1210、1212.21、1212.91~1212.99、1903、2001~2007、2008.11~2008.97、2008.99-01、2008.99-03~-09、2009
果実	01101	08、1106.30、2006~2007、2008.11~2008.97、2008.99-01、2008.99-03~-09、2009.11~2009.49、2009.61~2009.90
野菜	01103	07、1105、1106.10~1106.20、1210、1212.21、1212.91~1212.99、1903、2001~2005、2009.50



本資料に関する問い合わせ

長崎税関 調査部 調査統計課 ☎095-828-8659（直通）

〒850-0862 長崎市出島町1番36号

長崎税関ホームページ <https://www.customs.go.jp/nagasaki/>

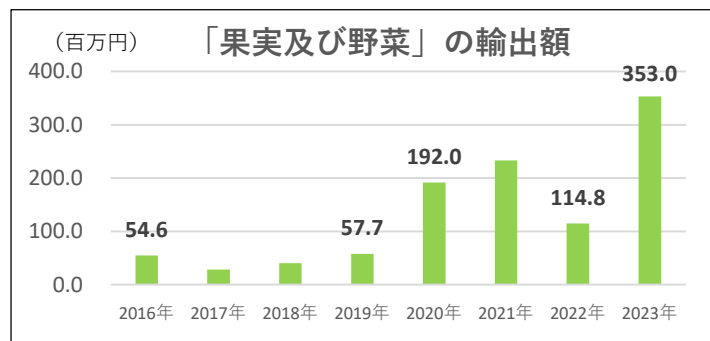
※本資料を他に転載する時には、長崎税関の資料による旨を必ず注記して下さい。



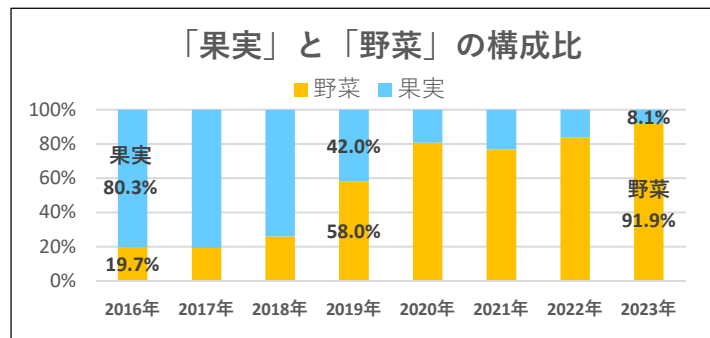
（注）本資料における貿易額は、長崎税関鹿児島税関支署、同鹿児島空港出張所、同志布志出張所、同川内出張所、同枕崎出張所が管轄する区域に蔵置された貨物の通関額。

2 輸出額の推移

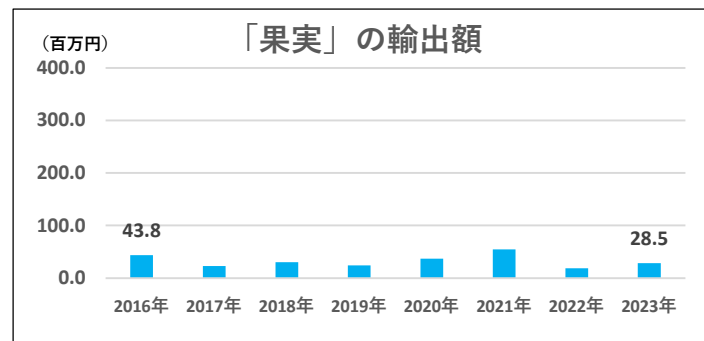
- (1) 「果実及び野菜」の輸出額について
 2016年から2023年までの輸出額は下グラフのとおりです。
 前年比で減少した年もありますが概ね増加しており、2020年及び2023年の輸出額は前年と比べ3倍以上の増加となっています。



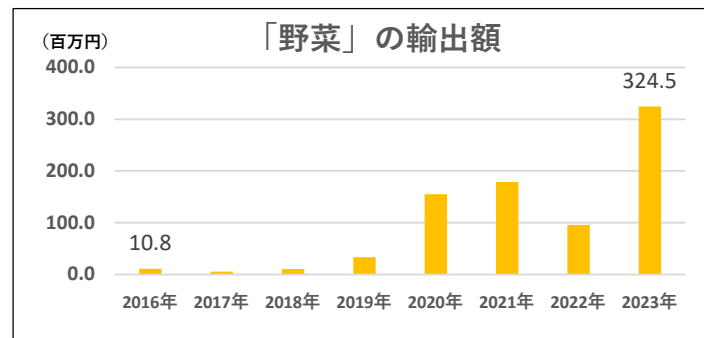
- (2) 「果実」と「野菜」の構成比について
 「果実」と「野菜」それぞれの輸出額の構成比を表したのが下グラフとなります。
 当初は「果実」が8割を超えていましたが、2019年以降は逆転しています。



- (3) 「果実」の輸出額について
 2016年から2023年までの輸出額は下グラフのとおりです。
 年ごとに若干の変動はありますがほぼ横ばいとなっています。



- (4) 「野菜」の輸出額について
 2016年から2023年までの輸出額は下グラフのとおりです。
 2023年の輸出額は3億2,400万円であり、2016年に比べ約30倍となっています。



3 仕向国別の輸出額

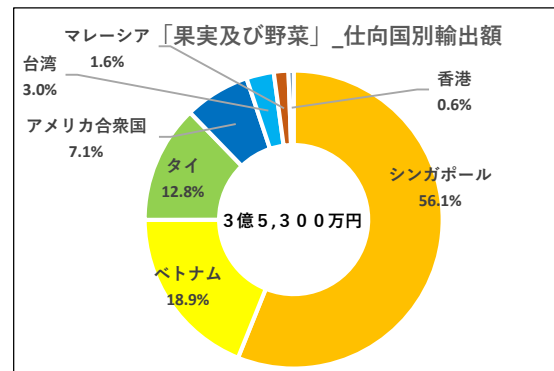
2023年の仕向国別輸出額は次表のとおりシンガポール、ベトナム、タイ、アメリカ合衆国等へ輸出されています。

(1) 「果実及び野菜」

輸出額は3億5,300万円であり、シンガポール、ベトナムなど7カ国に向け輸出されています。

シンガポール向けが1億9,800万円と全体の56.1%を占めています。

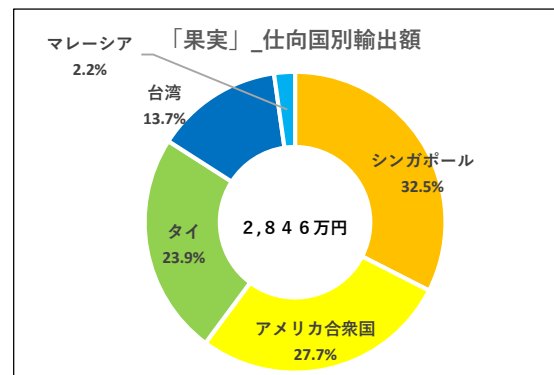
仕向国	輸出額(万円)
シンガポール	19,800
ベトナム	6,665
タイ	4,515
アメリカ合衆国	2,513
台湾	1,053
マレーシア	561
香港	195
合計	35,300



(2) 「果実」

輸出額は2,846万円であり、シンガポール、アメリカなど5カ国に向け輸出されています。

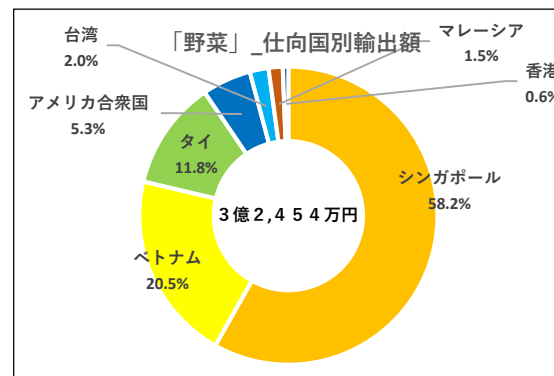
仕向国	輸出額(万円)
シンガポール	925
アメリカ合衆国	787
タイ	680
台湾	390
マレーシア	64
合計	2,846



(3) 「野菜」

輸出額は3億2,454万円であり、シンガポール、ベトナムなど7カ国に向け輸出されています。

仕向国	輸出額(万円)
シンガポール	18,875
ベトナム	6,665
タイ	3,834
アメリカ合衆国	1,725
台湾	663
マレーシア	497
香港	195
合計	32,454



4 品目別の輸出額

概況品コードをもとに「果実」及び「野菜」の輸出額を紹介してきましたが、統計品目番号をもとにした品目毎の輸出額は次のとおりです。

(1) 「果実」

主な品名ごとの輸出額の推移は下表のとおりです。

2020年以降「メロン（すいかを含む）」が恒常的に輸出されています。

○果実

単位：千円

品名	統計品目番号	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
かんきつ類	0805項	－	1,331	－	－	－	－	619	2,740
メロン（すいかを含む）	0807項	－	－	－	－	1,756	5,138	2,537	5,146
柿	0810項	－	－	－	－	－	－	3,434	5,113
その他の果実	0806、0808、0809項	2,721	295	－	－	－	－	－	－
果実の調製品	2006、2007、2008項	41,115	21,387	30,134	24,227	35,395	49,245	12,205	15,464
合 計		43,836	23,013	30,134	24,227	37,151	54,383	18,795	28,463

(2) 「野菜」

主な品名ごとの輸出額の推移は下表のとおりです。

鹿児島県の特産品である「かんしょ」の輸出額が2020年以降大きく増加しています。

2023年の「かんしょ」の輸出額は2億999万円であり、野菜全体の約65%を占めています。

○野菜

単位：千円

品名	統計品目番号	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
キャベツなど	0704項	－	－	－	－	1,452	5,625	10,257	15,578
サラダ用ビートなど	0706項	－	－	－	－	1,488	5,891	7,752	14,871
塩蔵野菜	0711項	－	－	－	12,309	14,312	23,185	47,421	66,645
かんしょ	0714項	4,097	－	6,160	12,020	128,083	129,763	19,835	209,994
その他の野菜	0702、0709、0712項	－	573	215	301	1,347	2,012	3,866	3,715
海藻その他の藻類	1212項	2,067	1,268	1,389	3,888	4,035	4,926	2,704	6,424
野菜の調製品	2001～2005項	4,611	3,648	2,779	4,931	4,145	7,462	4,123	7,314
合 計		10,775	5,489	10,543	33,449	154,862	178,864	95,958	324,541

5 「かんしょ」の仕向国別輸出額

前ページのとおり「かんしょ」の輸出額が大きく増加しています。「かんしょ」の仕向国別の輸出額を集計したところ下表のとおりであり、2020年以降シンガポール向けの輸出が大きく増加しています。

単位：千円

仕向国	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	構成比
台湾	-	-	3,911	-	226	19,860	7,907	6,627	3.2%
香港	-	-	2,249	10,468	9,782	-	-	1,954	0.9%
タイ	4,097	-	-	-	12,847	30,729	4,257	37,490	17.9%
シンガポール	-	-	-	-	95,929	56,546	-	158,571	75.5%
マレーシア	-	-	-	-	-	15,244	-	4,968	2.4%
カナダ	-	-	-	-	7,859	5,827	5,663	-	-
アメリカ合衆国	-	-	-	1,552	1,440	1,557	2,008	384	0.2%
合 計	4,097	-	6,160	12,020	128,083	129,763	19,835	209,994	100.0%

6 鹿児島県の取組み（鹿児島県HPより）

(1) 「鹿児島県農林水産物輸出促進ビジョン」の策定

輸出額の目標達成に向け、ロードマップに基づく計画的な取組みが推進されています。

2018年に策定された輸出の目標額は、輸出額が約155億円であった2016年を基準年として2025年までに約2倍の約300億円としていたが、2021年の輸出額が当初の目標額を超え約311億円に達したため、2023年に輸出目標額を基準年の約3.2倍である約500億円としています。

(2) 鹿児島県産品の海外への販路拡大等に関する連携協定の締結

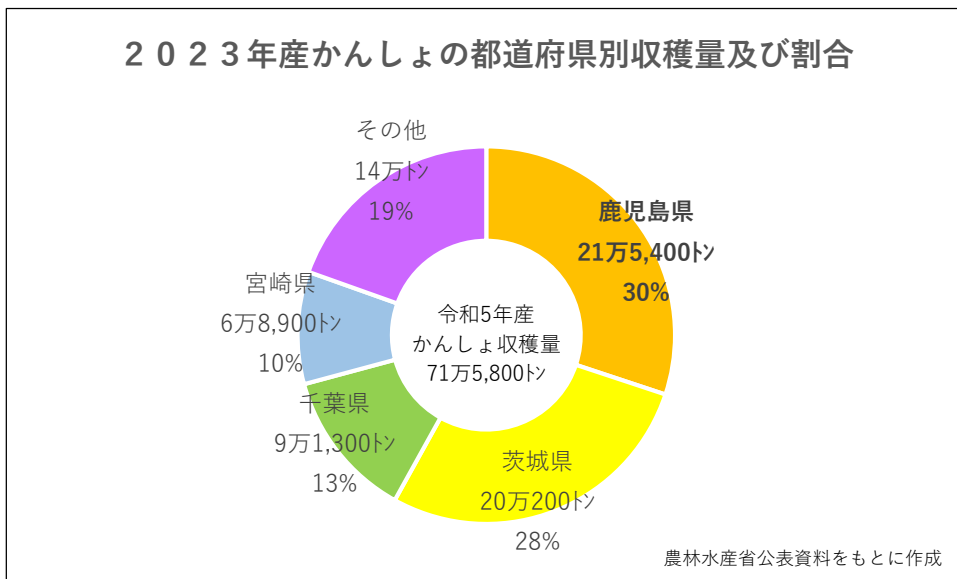
2020年10月、鹿児島県は株式会社PPIH（株式会社パン・パシフィック・インターナショナル・ホールディングス）と鹿児島県産品の海外への販路拡大等に関する連携協定を締結しています。

株式会社PPIHは、国内ではディスカウントストア「ドン・キホーテ」を運営しており、海外ではジャパンプランド・スペシャリティストアをコンセプトにした「DON DON DONKI」をアメリカ、シンガポール等で展開しています。



7 「かんしょ」の収穫量 ～鹿児島県は全国1位～

農林水産統計によると、令和5年産「かんしょ」の収穫量は下の円グラフのとおりであり、鹿児島県の収穫量は21万5,400トンであり全国1位を誇っています。



8 「かんしょ」の豆知識

日本へ伝わったのは？

メキシコを中心とした熱帯アメリカで生まれ、紀元前800～1000年ごろには中央アンデスで作られていたそうです。

日本には1600年ごろ中国から伝わってきました。

8代将軍徳川吉宗の時代、救荒作物として青木昆陽によって全国に広められました。

なお、伝来地が薩摩だったことから「さつまいも」、中国から来たことから「からいも」などの呼び方があります。

その後、朝鮮半島へ

江戸時代、日本への朝鮮通信使の派遣は12回を数えますが、1764年の第11回朝鮮通信使が苗木を持ち帰り、朝鮮半島でも栽培されるようになったそうです★。

★姜在彦著、朝鮮通信使がみた日本、株式会社 明石書店、2002、PP252-254